

## 『識字学級』って何ですか？

### 識字学級の意味

宇和島市には識字学級があります。「『識字学級』って何ですか？」って思われるかもしれませんが、識字学級とは、満身に学校教育を受けられず、文字の読み書きの能力を十分に身に付けられなかった方が、読み書きの力を取り戻すための学習会です。

では、なぜこのような学級（学習会）が必要だったのでしょうか。それは、かつて、同和地区においては、差別のために安定した仕事に就く道が閉ざされていたため、子どもの労働力にも頼らざるを得ない厳しい状況がありました。そのため、失われた学習の機会を再び得る必要があったからなのです。

### 宇和島市の取組

宇和島市では、読み書きの力を取り戻すために、当時の同和教育課の職員を中心に、識字学級の開設に向けての取組がなされ、1990（平成2）年から三つの識字学級が開設されました。それから20年を経過した現在、学級生の高齢化も進み、活動を続けている学級は1学級のみとなってしまいました。

開設当時から在籍されている唯一の学級生の方にお話を伺いました。

#### 「識字学級の歩み」

学級生のお話

私たちの識字学級が始まったのは平成2年からで、もう21年目になります。きっかけは、当時の市職員の方たちが非常に熱心に「識字せんか？」って、一軒一軒、地区の中を回って誘ってくださったんです。字の勉強をするのも大事だけど、皆で集まって交流の場をもとめようじゃないかって、20人以上集まったんです。宇和島には学級が三つあったんです。でも、だんだん人数が少なくなって、今では私の住んでいる地域の1学級だけになってしまいました。



この識字学級は、かつての同和地区での活動として始まったということもあり、同和問題について触れることもあります。私は他県から嫁いできましたので、ここが同和地区だったとは知りませんでした。私の住んでいるところが、なぜ差別されるのか、どうしてこんな事になったのか。その疑問が、私が同和問題に取り組むきっかけでした。識字学級が始まるまで、宇和島市の同和教育推進委員として20年くらい取り組んでいました。

このように私は、学級ができる前から同和教育の推進活動もしていたのですが、識字学級に参加するようになってからは、そこでの出来事を食事の際に家族に話していました。私の孫たちが差別に負けないように育ててくれたのは、識字学級での話を聞かせていたからかなと思いますし、それはとてもうれしく思います。

私は、いくら頭が良くて読み書きできても、心が悪かったら駄目じゃないかと思うんです。私もそんなに読み書きできる方じゃないですけど話すことなら負けないと、同和教育の四国大会で高知や徳島など、あちこちで勉強をし、発表にも行きました。

学級ができた翌年には奈良県での全国大会で発表したこともあるんです。

昔は本当に熱心に、いろんな所へ行きました。それが、学級生もどんどん年を取っていきます。亡くなってしまったり、体を悪くして来られなくなったりして、学級生も少なくなってしまうました。以前は参加されていても、事情や都合で来られなくなった方もおられます。今ではいつも出席してるのは私を含めて3、4人です。識字学級は、誰のためでもない自分のためのものです。他の誰かのためではないんです。勉強でもなんでも、自分のためだと思わなければ、ここまで続けてできませんでした。

一度やめられた方も、もう一度「なにくそ」と思って参加してほしいんです。「やめても得なことないよ。踏ん張ってやることで自分のためにもなるよ」って思うんです。

識字学級を始めた当初は、読み書きの勉強を一生懸命やらなくてはと、私たちも思っていました。しかし、勉強ばかりではどうしても続かなくなるんです。そこで、作文を書いたり俳句や川柳を作ったりしましたし、皆でカラオケに行ったりなど、楽しめるようなこともやりました。字幕で歌詞を見て歌えるのが楽しくて、カラオケは本当によく行きました。学級で作った作品は、隣保館の文化祭で皆さんに披露していました。

この20年の間、いろんな思い出がありますが、私にとっては嫌な事は一つもありません。今でも手元には、これまでに作ってきた文集や作品を、記念として大切に残しています。振り返って眺めていると、もう結構な数の人が亡くなってしまわれましたが、当時みんなで思い思いに書いたことを思い出してしまいます。これは私の宝物です。私が亡くなったら棺に入れてもらうようお願いしているんです。

### 「識字学級の今」

学級生は随分減ってしまいましたが、その反面、一緒に勉強したいといってくれる子どもたちは増え続けています。保育園の園児さんたちや宇和島東高校の生徒さんたちは、時間の都合が合えばですが、もう10年以上一緒に活動しています。最近は近隣の中学校や高校の生徒さんからも、是非参加したいと声を掛けてくださっています。遠くは八幡浜の学校からも問い合わせがありました。識字学級という活動が、愛媛県では数が少なく珍しいそうです。



識字学級も、子どもたちの学校と同様に学期があります。そして、季節に合わせて行事があり、3月には年度の修了式をするんです。園児さんたちや生徒さんたちは卒業していきますが、私たち学級生は修了しても卒業することはありません。年の差も孫や曾孫のような子たちと一緒に勉強しております。子どもたちも熱心に参加してくれて、とてもうれしいんですが、大勢の人に来ていただいているのに、肝心の我々学級生の方が少なくて、申し訳なく思ってしまうます。

最初は、文字の読み書きの能力を取り戻すために始まった学級でしたが、学習が進んで気付いたのは、識字活動をとおして、一緒に活動して互いが相手を認め合い、つながりを深めていくということでした。そして、勉強するのは自分のためなんだと思いつけてきたからこそ、頑張ってるって思われるのだと思います。今では80歳に近いお婆さんが数人になってしまいましたが、もう一度、大勢で賑やかだった頃のように皆で楽しく識字をやりたい。そう思うばかりです。